

来るさのせみ



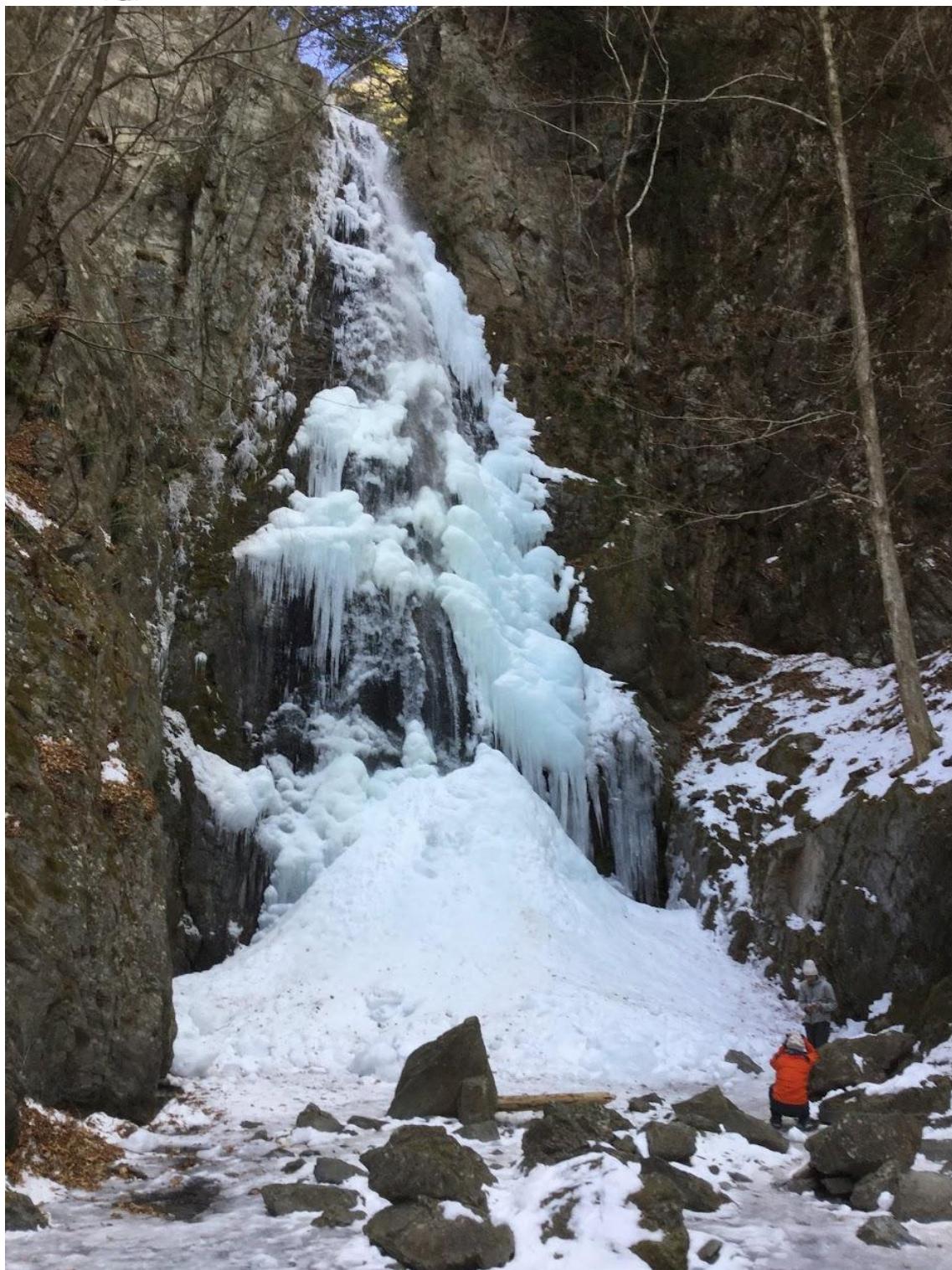
奥多摩

《第76号》

令和7(2025)年

1月15日 発行

一般社団法人 奥多摩観光協会



2018.1.27

百尋ノ滝

平成30(2018)年の1月は最低気温が-6°C前後の日が続き、1月25日から27日までは特に冷え込みが強く-8°C以下となりました。これはチャンス到来と、思い立って足を運んで撮ったのがこの百尋の滝(標高約800m)です。気候変動・温暖化が続いているが、今年の寒さに氷瀑を期待したいところです。アイゼンを用意して行くことをお勧めします。今年が良い年でありますように。

行って来たあよ

No. 19 11月26日(火)開催

紅葉の奥多摩むかし道

一日の安全を祈願して氷川神社を出て、ここが以前は鍛冶屋さんと言っている間に、橋の上。多摩川と日原川の出会いがすっかり



様変わり。大きな中洲に猫の額ほどに小さく狭くなつた河原。来年の川遊びはどうなるのかな。

羽黒坂さいかち木と順調に歩をすすめます。右手には宙に届かんばかりの高さの白い橋脚、ダム建設の為の河内線跡です。谷あいの紅葉に映えてカメラに収めるより絵画さんになってキャンバスに表現したくなります。境集落手前より石段を降りて近道して境の清泉へ。東京都銘水57撰の一つです。わさび田を潤し、クレソンを育てています。心ばかりの賽銭を水神様へ。林道を左に、右手のむかし道を白髪の大岩、弁慶の腕ぬき岩、耳神様と進んで行きます。

むかし道から長い板を屋根に渡して積もった落ち葉を屋根から掃き落としているおばちゃんがいました。写真の専門誌でも紹介されている新の家も必見です。取りたて柚子の無人販売、草餅、手造りコンニャクを軒先で紹介していたおばちゃんとのコミュニケーション。ここに来る手前で30頭位の猿のグループに会った事を話すと、最近よく出没すると言つていました。小腹が減ったので草餅でエネルギーを補充します。いろは楓、二本の吊橋からの惣岳渓谷の紅葉は天下一品です。



分教場跡にて昼食をすませ、川合玉堂碑に謠われた

“山の上の はなれ小むら”の中山集落を目指します。西久保の切り返しに来ると柵の向こうの小屋から煙がモクモクと昇っています。ダム湖に流れ込んだ木材で炭を焼いているそうです。炭焼き窯があったんですね。左手にダムを観ながらの山越えです。浅間様、お不動尊を過ぎて水根林道を経てジギタリスの丘を下り水根キャンプ場に無事到着しました。

道中は寄り道、近道そして回り道。お客様との楽しい一日でした。

ガイド 緒方 利幸

No. 20 12月1日(日)開催
鹿倉山(1288m)奥多摩湖ベストビュー

鹿倉尾根は多摩川と小菅川に挟まれた中央に位置しています。北には雲取山山頂から伸びる石尾根が奥多摩駅へ、南には大菩薩連嶺の熊沢山付近から奥多摩三山に至る尾根が連なります。

参加者16名、ガイド6名で奥多摩湖の深山橋から丹波山までの縦走登山を行いました。危険箇所が2カ所（大寺山への急登の左右に切れた所とマリコ川の足場が悪い所）ありましたが無事にクリアして予定通り15:52丹波山温泉バス停発臨時便に乗車して家路に就きました。

12月の登山は日没との競争です。万が一に備え、日帰り登山でも必ずヘッドライトを持ちましょう。

下は12月1日に大山戸山山頂付近からわずかに北側に下ったところから東側を撮ったものです。



多摩川が堰き止められた河内ダム（奥多摩湖）の水面が画面の中央に空の青さと同じように青く映っています。左奥には小さな三つの山並みが左から岩茸石山、高水山そして惣岳山と確認できます。中心は何といっても大きな三角形を作っている御前山（1405m）でどっしりとした美しい山容に自然と目が向きます。

右下方に日本山妙法寺の仏舎利塔が見えます。大寺山山頂に昭和48(1973)年に建設され「帝都仏舎利塔」と案内板にあります。日本山妙法寺の本部は渋谷にあり、昭和35(1960)年雲取山荘初代管理人の富田治三郎氏の葬儀が山岳関係者を集め盛大に執り行われています。

大丹波峠は昭和50年代初め現在の丹波山村と小菅村を繋ぐ道路が完成するまで徒歩で往き来していた重要な峠道でした。今回の登山は歴史を知る山行ともなりました。

ガイド 増澤 強

季節のオススメのイベント

No. 21 2月28日(金)開催 高水三山(岩茸石山 793m)

軍畠駅より車道に出て平溝通りから高源寺へ、そこから高水山への表参道をひたすら登り常福院龍學寺、高水山を経て岩茸石山で昼食、惣岳山から御嶽駅までの入門コースとして最適な山登りである。

平溝川の清流と高水山表参道

軍畠駅から平溝川沿いを北に進むと曹洞宗高源寺が見えてくる。ここで登山準備をし、車の通れる坂道を登り始めると庭先に珍しい金魚ツバキのあるお宅を過ぎ平溝川に架かる堰堤を越え、間もなくスギ林の中の本格的な登山道へ。



高水山(759m)

ここから一登りでベンチのある尾根に出て東に開けた都心を眺めながら小休止、あとは合目表示の石碑に励まされながら徐々に高水山へと近づいていく。

車の通れそうなならかな道を併せ、短い階段を左に登れば正面に真言宗豊山派高水山常福院龍學寺の本堂。参拝を済ませ一休みをした後は一登りで高水山の山頂である。



岩茸石山(793.0m)

高水山から今日の最高峰岩茸石山までは約一時間で、午前中には到着したい。360度の景色を楽しみながらゆっくりと昼食。

なお、この地域は東京都の森林環境保全地域にも指定されており、マナーについても一層留意したい。



昼食後は岩茸石山の急な下りを木の根に掘まりながら慎重に下っていく。しばらく進むと途中東側斜面の森林が皆伐され展望が素晴らしく良くなってくる。つぎの写真からは午前中たどって来た高水山、そしてこれから目指す惣岳山も指呼の間にある。



岩茸石山(左)と高水山



惣岳山

惣岳山(756m)

しばしの展望の後、急な登り坂に差し掛かると、今日の最後の登りである。後に続く仲間の為にも途中での休憩は取らず、一挙に登りたい。鬱蒼とした森の中に佇むお社は、今日三番目の目的地でもある惣岳山の青渭神社である。この神社の里宮は沢井があり、ここはその奥宮である。



惣岳山への登り



惣岳山頂



本堂と彫刻

御嶽駅への下り

青渭神社前で小休止の後は、一路御嶽駅への下りである。疲れた身体に下りはきついものであるが歩幅を小さくして一歩一歩慎重に足を運びたい。

送電線の鉄塔や沢井駅方面への分岐の標識、そして間もなく民家が見えてきたら真言宗豊山派の慈恩寺に到着する。JR青梅線をまたぐと終点の御嶽駅がすぐそこである。解散後は御岳渓谷の散策や対岸の玉堂美術館に足を運んでみるのもお薦めである。



送電鉄塔



沢井への分岐



慈恩寺



御嶽駅

今後の山歩き

岩茸石山から御嶽駅までの間は関東ふれあいの道(東京都7号山草のみち)にも指定されており、これから新しい挑戦として都内のふれあいの道1~6号にも挑戦してみたい。

ガイド 富士 光男

季節のオススメのイベント

No. 22 3月14日(金)開催 高峰(755m)と花の盛りの梅の公園へ

一気に「ラニヘッドトレイル」の高みへ
御嶽駅前の南にドーム状の大きな山容の急斜面が立ちはだかります。それがこれから登る高峰北尾根ルートでかつては「道標なし、熟達者向き」と吉備入出版地図に載っていました。

石原都政時代、壁のような斜面のスギ森が皆伐された後、花粉の少ないスギに植え替えられました。植林作業の困難さを想像しながらスギの成長の様子を見ましょう。2019年の台風の大風で中央を走る溝が土砂崩れを起こし避難命令が出された場所でもあります。

当日が好天に恵まれたなら300mほど登った地点から西方に下の画像の景色が期待できます。左奥が鷹ノ巣山、次が雲取山そして平らな部分に雲取山荘があります。チクマ山の少し左手の奥に芋の木ドッケがわずかに顔を出しています。



眼下に目をやれば玉堂美術館付近はチャートの大岩「忍者返しの岩」見事な渓谷美！

標高755mの高峰山頂から下山を始めます。足元に注意して下り、金毘羅神社では東に開けた都心の景色を楽しむことができます。

梅の公園はプラムポックスウイルスの蔓延により、2014年に全てのウメが伐採されました。現在は再生に向けて植樹作業が進められ、在りし日の姿に戻りつつあります。



2014春

氷川渓谷一部封鎖

奥多摩駅から徒歩圏にある氷川渓谷。

この夏は8月12日、8月20日と立て続けに水難死亡事故が発生しました。

氷川渓谷は遊泳禁止、テントの設営や直火BBQも禁止されています。しかしルールは守

られることなく、関係者で声掛けなどを行っているのが現状となっています。

このような状況を鑑みて、河川管理者である東京都は死亡事故があった河原へ進入禁止のバリケードを設置しましたが、それをすり抜けする形での侵入も後を絶ちません。

河川の適正利用に関しては、課題を残したまま次の年度を迎えることになりそうです。



五十人平野営場 今春開業（予定）

平成31(2019)年に町営奥多摩小屋は老朽化のため閉鎖されました。しかしながら、奥多摩小屋はテント場としても人気が高く、閉鎖後も再開の声が多く上がっていました。

そのため、閉鎖直後から再開に向けて行政での検討や工事が進められ、令和7年(2025)年の春に、野営場(テント場)として再開することが決まりました。

現在奥多摩小屋の跡地には、管理棟やトイレが新設されています。また、野営場の周囲を取り囲むように鹿柵が設置され、奥多摩エリアの課題となっているニホンジカへの対策を講じた整備も進められています。



管理棟（奥）とトイレ（手前）

次号発行予定：2025年4月15日

発行 一般社団法人 奥多摩観光協会

住所 〒198-0212 奥多摩町氷川210

電話 0428-83-2152 FAX 0428-83-2789

編集 名人・達人観光ガイドの会

来さっせえ奥多摩のバックナンバー
をオンラインでご覧いただけます。

